

Title	癌と人 第6号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1978, 6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24157
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第6号 目次

ごあいさつ	1
理事長 川 勝 傳	
大阪癌研究会の事業目標について	2
常任理事 田 口 鐵 男	
がん—最近の話題—	
1. 臨床閑話—脳腫瘍2題—	3
芝 茂	
2. 再びインターフェロンについて	7
川 俣 順 一	
3. 癌細胞を正常細胞に変える話	9
岡 田 善 雄	
4. 癌の遺伝情報	12
豊 島 久真男	
5. “古きをたずねて新らしきを”	15
倉 堀 知 弘	
6. 集団検診雑感	18
中 野 陽 典	
7. 子宮癌をめぐる最近の話題から	20
早 川 謙 一	
8. 処方せんからみた抗ガン剤	22
中 村 繁 一	
財団法人大阪癌研究会寄附行為	25
大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿	28



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。